

小林石材がお届けする手作り新聞



平成30年（2018年）
春号

発行
第4号

いしまご便り

屋号

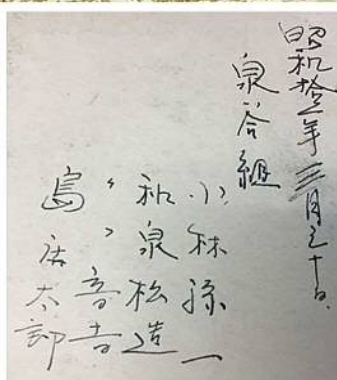


明治34年 初代 孫一から

おかげさまで 創業115年



登別駅改築工事写真の裏には
『昭和拾一年三月三十日』と
メモが残されている



現在の登別駅

小林石材 今昔物語 ～北海道内に残した小林石材の足跡～

今年、平成30年（2018年）に「北海道」と命名されてから150年目の節目を迎えます。
北海道の歴史と共に歩んだ小林石材の足跡を今昔を交えてご紹介いたします。

今回ご紹介するのは《登別駅改築工事》です。この写真を見たときに学生服のような制服を着た男性が写っているので学校の石工事を施工した時の写真かと思いましたが、色々と調べてみると登別駅と判明いたしました。制服姿の男性は登別駅員達でした。明治30年（1897年）12月1日に水害被害のため現在位置に新築したようです。調べてみると昭和10年（1935年）3月30日に改修の情報もありますが、昭和11年（1936年）3月30日と写真の裏に記載がありました。現在の登別駅と比べても入り口部分は改修したようですが、壁面に張られた石、窓の位置、屋根の形状など当時と変わらず同じです。

◆登別駅：登別市登別東町2丁目115 TEL：0143-83-1004

お墓の相談室



Q：お墓のメンテナンスで重要な部分は何ですか？

A：1番重要な部分は石と石との継ぎ目の《目地》です。

目地が切れているとその部分から水が入り、目地の不良箇所によっては納骨されているお骨を濡らしてしまうケースもあります。

水は氷になると膨張する性質があります。

目地の不良を放置しておくとも氷による膨張で石を動かし大きく石と石との継ぎ目が広がるケースもあります。

この場合はお墓を一時解体して再度、組直すことになり費用の負担も大きくなります。

札幌市近郊のお墓は平成の初め頃からモルタル目地からコーキング目地へと施工方法が変わっております。モルタル目地は5年程度で劣化してしまいますがコーキング目地は10～15年程度大丈夫なようです。

コーキング材はゴム質で伸縮性があり寒冷地のお墓づくりには最適な素材です。

先日、長野県で4歳の園児が高さ60cm、幅40cm、奥行き20cmの墓石の下敷きになってしまいました。本州に行くと固定されていないお墓が多く見受けられます。固定さえしてあれば防げた事故かも知れません。

石屋職人のなるほど講座

石屋の職人が石のこと、石屋の仕事のことをご紹介しますコーナーです。

第4回目は『天山石（てんざん）』の話です。

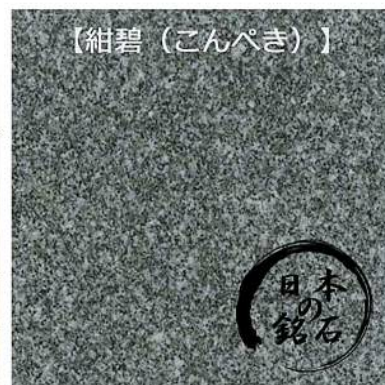
佐賀県唐津市七山池原で採掘され、その魅力は国産材の中でもトップクラスの吸水率の低さと抜群の硬度からくる艶持ちの良さです。唐津城の石段や石垣もこの地域で採石された御影石で作られています。天山石は、花崗岩（かこうがん）と閃緑岩（せんりょくがん）の中間的な性質をもつ、『花崗閃緑岩』に分類されます。

お墓用の石材としては【天山石（てんざん）】【銀剛（ぎんごう）】と【紺碧（こんぺき）】の3種類があります。【紺碧（こんぺき）】は青みの強い石を選びすぐり、データ的に合格した超特級和石です。産地証明だけではなくシリアル番号管理を行っています。

【銀剛（ぎんごう）】は量産モデルの特級和石で産地証明も発行しております。

【天山石（てんざん）】は紺碧、銀剛として出荷できない石ですが、石の性能は銀剛同様のものを備えていますが、石の色が白すぎたり、石の模様のまざりが均一でなかったりしています。

■見掛け比重 2.68 t/m³ ■吸水率 0.059% ■圧縮強度 192.50 N/mm²



上の採石場の画像は今年の2月28日に訪れた時の状態です。

写真の為に色合いなどが実際と多少異なります。

吉野ヶ里遺跡を訪ねて

平成30年2月27日に佐賀県神埼郡吉野ヶ里町にある吉野ヶ里遺跡に行ってきました。吉野ヶ里遺跡への訪問は2回目ですが、この度はボランティアガイドに同行してもらい当時の生活、祭祀、お墓の説明を受けながら約3時間、説明を聞きながら見学しました。吉野ヶ里遺跡とは紀元前5世紀から紀元後3世紀までの弥生時代、稲作の文化が始まり、定住文化が根付いた時代を復元され国の特別史跡に指定されております。

当時の生活はもちろん興味深いものがありますが、今回は当時のお墓について紹介いたします。吉野ヶ里遺跡では甕棺（かめかん）墓列 と北墳丘墓 の2か所を見ることが出来ます。甕棺（かめかん）墓列 は一般の人々の墓地で大型の素焼きの土器に亡くなった人の手足を折り曲げて入れて土の中に埋める埋葬方法です。【王の埋葬方法】

弥生時代中頃のおよそ200年間使われていたようです。

甕棺（かめかん）は北部九州で多く発見されている特徴的な方法です。甕棺（かめかん）墓列の真ん中に道が設けられていて、その左右に2,000基を超える甕棺（かめかん）が600m整然と並べられています。

その他には土を掘り下げた土坑墓（どこうぼ）

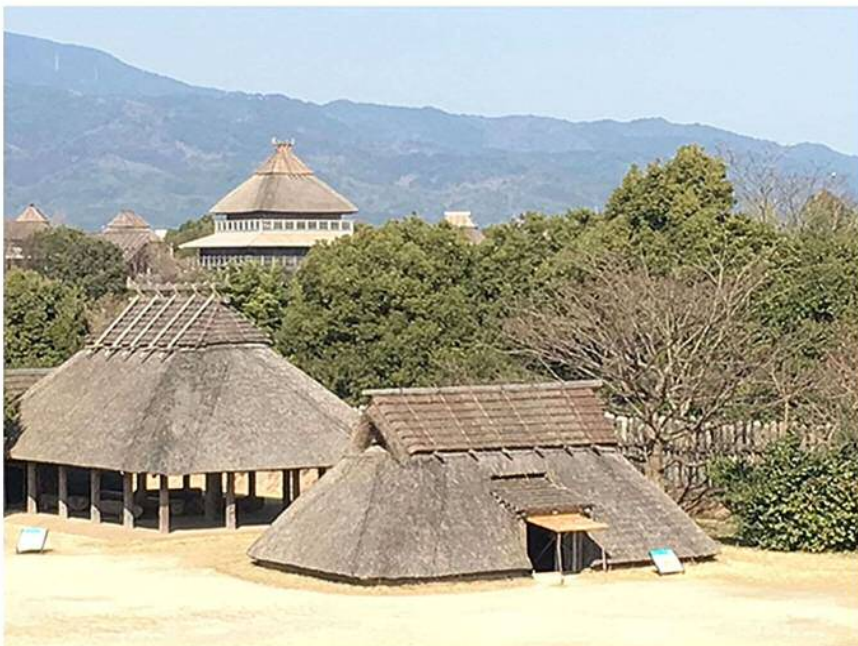
平石で作った石棺墓（せっかんぼ）を見ることが出来ます。

また、北墳丘墓は歴代の王が埋葬されている特別なお墓と考えられています。北墳丘墓には14基の甕棺（かめかん）

が見つかり、ガラス製の管玉や銅剣と一緒に収められている

ものもありました。内部は展示施設となっており発掘された状態で見学することができ、本物の甕棺（かめかん）が持つ迫力を体感できます。

紀元前5世紀から紀元後3世紀までの弥生時代にはすでに歴代の王だけではなく、一般の人々の墓地が造成され祖先の霊が眠る場所として人々から大切にされていた事を考えると日本人は古くから亡くなった人に対する思い大切にしていたことを感じます。いつか青森県にある縄文時代の集落跡『三内丸山遺跡』に行き『日本人のお墓の原点』とも言われる土坑墓（どこうぼ）も見学したいと思いました。



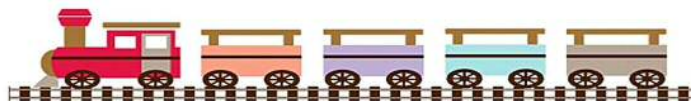
【背振（せふり）山と吉野ヶ里遺跡】



【土坑墓（どこうぼ）と石棺墓（せっかんぼ）】



【甕棺（かめかん）】

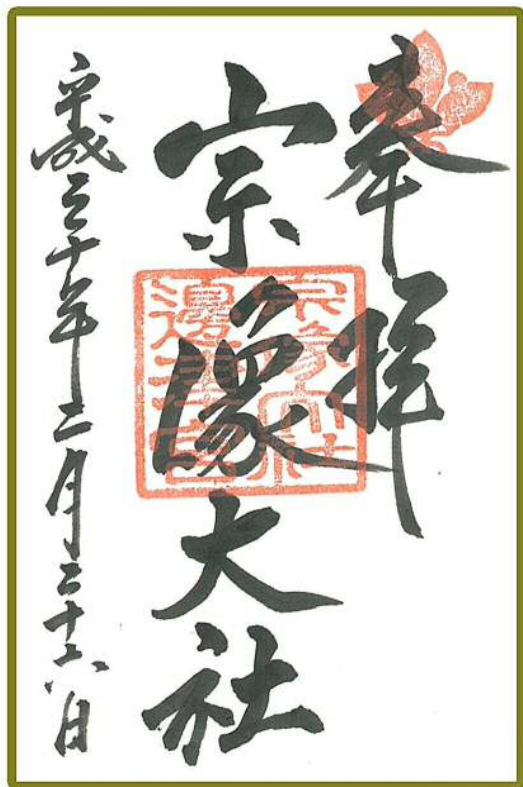


御朱印の旅

御朱印とは？

神社やお寺を参拝した際に参拝した証しにいただく印章のことです。

もともとは参拝者が写経をお寺にを収めた際にその証として押印されたものが起源と言われています。



宗像大社 辺津宮 御朱印

今回ご紹介する御朱印は福岡県にある
天照大神の三柱（みはしら）の御子神（みこがみ）を
お祀りする宗像大社（むなかた たいしゃ）です。

三柱の御子神のお名前は
田心姫神（たごりひめのかみ）
湍津姫神（たぎつひめのかみ）
市杵島姫神（いちきしまひめのかみ）と申し上げ、
田心姫神は 沖津宮（おきつぐう）
湍津姫神は 中津宮（なかつぐう）
市杵島姫神は 辺津宮（へつぐう）に
お祀りされており、この三宮を総称して
「宗像大社」と言います。

沖津宮がおまつりされている沖ノ島は上陸は出来ず、
中津宮は大島に鎮座し船で渡ることが可能です。
辺津宮は福岡県宗像市に鎮座し、辺津宮内には
第二宮（ていにぐう）に沖津宮の田心姫神を、
第三宮（ていさんぐう）に中津宮の湍津姫神を
お祀りしています。

辺津宮には神宝館があり、沖津宮から出土した
多くの国宝を見学することが出来ます。

編集後記

最近、お墓の改修（リフォーム）を弊社では多く受注しております。

石と石の継ぎ目部分の目地補修、彫刻部分の墨入れ補修、ステンレス器具の交換、
化粧砂利部分を全面床張りに施工し、基礎のモルタル部分を御影石で施工したりと
図面を作成しお客様の希望、ご予算に合わせて見積りを致しております。

お客様のお墓を守るお手伝い、お墓の改修も弊社にとって大切な仕事、役割です。

（小林 誠）

厚生労働大臣認定 1級石材施工 加工 技能士 厚生労働大臣認定 1級石材施工 石張り 技能士
厚生労働大臣認定 1級石材施工 石積み 技能士

創業明治34年 115年の伝統と技術



株式
会社

小林石材



0120-068-148

いしや

本社：〒004-0812 札幌市清田区美しが丘2条10丁目2-2 TEL：011-881-0172
長沼伏古店：〒069-1311 夕張郡長沼町伏古2027-11 TEL：0123-88-3905
長沼工場：〒069-1317 夕張郡長沼町東1線北14 TEL：0123-89-2919